(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3246325号
(U3246325)

(45)発行日　令和6年4月5日(2024.4.5)

(24)登録日　令和6年3月28日(2024.3.28)

(51)国際特許分類
Ａ４７Ｇ　33/00　(2006.01)

ＦＩ
Ａ４７Ｇ　33/00　Ｚ

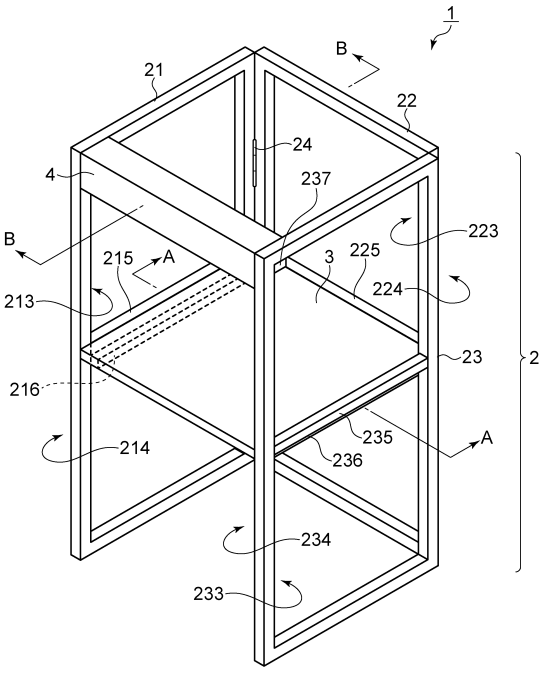
評価書の請求　未請求　請求項の数　3　ＯＬ　（全8頁）

(21)出願番号　実願2024-402(U2024-402)
(22)出願日　令和6年2月10日(2024.2.10)

(73)実用新案権者　519097630
株式会社モリヤ
静岡県掛川市本郷１５３８番地の２の１
(74)代理人　100209624
弁理士　制野 友樹
(72)考案者　守屋 建宏
静岡県掛川市本郷１５３８－２－１ 株式会社モリヤ内

(54)【考案の名称】　折り畳み盆棚

(57)【要約】
【課題】収納スペースを低減し、かつ重さが軽く、組み立てる際や運ぶ際の負担が軽減された盆棚を提供すること。
【解決手段】本考案に係る折り畳み盆棚１は、棚枠２と、棚板３を備え、棚枠２は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３を有し、第１の側枠２１の幅方向の一方の端辺２１２及び背枠２２の幅方向の一方の端辺２２１、並びに背枠２２の幅方向の他方の端辺２２２及び第２の側枠２３の幅方向の一方の端辺２３１がそれぞれ連結されており、第１の側枠２１の第１の面２１３、背枠２２の第１の面２２３及び第２の側枠２３の第１の面２３３が同じ側に配置されており、第１の側枠２１の第１の面２１３及び背枠２２の第１の面２２３、並びに背枠２３の第２の面２２４及び第２の側枠２３の第２の面２３４が合わさるようにして折り畳み可能である。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
棚枠と、棚板を備え、
前記棚枠は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠、背枠及び第２の側枠を有し、
前記第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び前記背枠の幅方向の一方の端辺、並びに前記背枠の幅方向の他方の端辺及び前記第２の側枠の幅方向の一方の端辺がそれぞれ連結されており、
前記第１の側枠の第１の面、前記背枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が同じ側に配置されており、
前記第１の側枠の第１の面及び前記背枠の第１の面、並びに前記背枠の第２の面及び前記第２の側枠の第２の面が合わさるようにして折り畳み可能であるか、又は前記第１の側枠の第２の面及び前記背枠の第２の面、並びに前記背枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が合わさるようにして折り畳み可能である
折り畳み盆棚。
【請求項２】
組み立て状態において、前記第１の側枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が対向し、
少なくとも前記第１の側枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面に、それぞれの面から組み立て状態の前記折り畳み盆棚の内部に向けて、前記棚板を設置するための棚板指示部を有する
請求項１に記載の折り畳み盆棚。
【請求項３】
前記第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び前記背枠の幅方向の一方の端辺、並びに前記背枠の幅方向の他方の端辺及び前記第２の側枠の幅方向の一方の端辺の連結が、屏風蝶番によってなされる
請求項１又は２に記載の折り畳み盆棚。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、折り畳み盆棚に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
お盆に先祖を祀るため、盆棚を飾る風習がある。盆棚とは、位牌や供え物を置く棚であり、サイズとしては、通常、幅５０～１００ｃｍ、奥行き５０～１００ｃｍ、高さ１００～２００ｃｍのものが用いられている。特に、各部をビス等で留める作業は、各部材の重さや大きさが多いため作業性が悪く、箇所も多いため、組み立ての作業が煩雑となっている。また、このような盆棚は、一年にお盆の時期のみ使用するものであり、収納にもまとまったスペースが必要となる。
【０００３】
例えば、特許文献１には、上段板の幅方向の両端に、２枚の側板が蝶番で連結され、折り畳み可能に構成された盆棚が開示されている。側板は、その高さ方向が上段板の幅方向に沿って、２枚並ぶように折り畳まれる。折り畳みのできないものと比べると、ビス等で留める作業がなくなったため、組み立ての作業の負担は軽減されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】実用新案登録第３１４４４６６号公報
【０００５】
しかしながら、特許文献１の盆棚は、折り畳んだ際に、幅方向が高さ方向の２倍になり、収納にスペースを要する。また、本体の重量が重く、組み立てる際や運ぶ際の負担は依

然として大きい。
【０００６】
本考案は以上の実情に鑑みてなされたものであり、収納スペースを低減し、かつ重さが軽く、組み立てる際や運ぶ際の負担が軽減された盆棚を提供することを目的とする。
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００７】
本考案者は上述した課題を解決するため、検討を重ねた。その結果、棚枠と、棚板を備え、棚枠は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠、背枠及び第２の側枠を有し、第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び背枠の幅方向の一方の端辺、並びに背枠の幅方向の他方の端辺及び第２の側枠の幅方向の一方の端辺がそれぞれ連結されており、第１の側枠の第１の面、背枠の第１の面及び第２の側枠の第１の面が同じ側に配置されており、第１の側枠の第１の面及び背枠の第１の面、並びに背枠の第２の面及び第２の側枠の第２の面が合わさるようにして折り畳み可能であるか、又は第１の側枠の第２の面及び背枠の第２の面、並びに背枠の第１の面及び第２の側枠の第１の面が合わさるようにして折り畳み可能である盆棚によれば、重さが軽く、組み立てる際や運ぶ際の負担が軽減されることを見出し、本考案を完成するに至った。具体的に、本項案は以下のものを提供する。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
（１）棚枠と、棚板を備え、
前記棚枠は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠、背枠及び第２の側枠を有し、
前記第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び前記背枠の幅方向の一方の端辺、並びに前記背枠の幅方向の他方の端辺及び前記第２の側枠の幅方向の一方の端辺がそれぞれ連結されており、
前記第１の側枠の第１の面、前記背枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が同じ側に配置されており、
前記第１の側枠の第１の面及び前記背枠の第１の面、並びに前記背枠の第２の面及び前記第２の側枠の第２の面が合わさるようにして折り畳み可能であるか、又は前記第１の側枠の第２の面及び前記背枠の第２の面、並びに前記背枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が合わさるようにして折り畳み可能である
折り畳み盆棚。
【０００９】
（２）組み立て状態において、前記第１の側枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面が対向し、
少なくとも前記第１の側枠の第１の面及び前記第２の側枠の第１の面に、それぞれの面から組み立て状態の前記折り畳み盆棚の内部に向けて、前記棚板を設置するための棚板指示部を有する
前記（１）に記載の折り畳み盆棚。
【００１０】
（３）前記第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び前記背枠の幅方向の一方の端辺、並びに前記背枠の幅方向の他方の端辺及び前記第２の側枠の幅方向の一方の端辺の連結が、屏風蝶番によってなされる
前記（１）又は（２）に記載の折り畳み盆棚。
【００１１】
本考案によれば、収納スペースを低減し、かつ重さが軽く、組み立てる際や運ぶ際の負担が軽減された盆棚を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て状態における斜視模式図である。
【図２】本実施形態の折り畳み盆棚の棚枠を展開した平面模式図である。

【図３】本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て時のＡ－Ａ断面図である。
【図４】本実施形態の折り畳み盆棚の折り畳み方について説明するための模式図である。
【図５】本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て状態におけるＢ－Ｂ断面図である。
【考案を実施するための形態】
【００１３】
本考案の実施形態に係る折り畳み盆棚は、棚枠と、棚板を備え、棚枠は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠、背枠及び第２の側枠を有し、第１の側枠の幅方向の一方の端辺及び背枠の幅方向の一方の端辺、並びに背枠の幅方向の他方の端辺及び第２の側枠の幅方向の一方の端辺がそれぞれ連結されており、第１の側枠の第１の面、背枠の第１の面及び第２の側枠の第１の面が同じ側に配置されており、第１の側枠の第１の面及び背枠の第１の面、並びに背枠の第２の面及び第２の側枠の第２の面が合わさるようにして折り畳み可能であるか、又は第１の側枠の第２の面及び背枠の第２の面、並びに背枠の第１の面及び第２の側枠の第１の面が合わさるようにして折り畳み可能である。
【００１４】
以下、より具体的に、図を用いて説明する。図１は、本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て状態における斜視模式図である。図２は、本実施形態の折り畳み盆棚の棚枠を展開した平面模式図である。
【００１５】
図１に示す折り畳み盆棚１は、主として、棚枠２と、棚板３と、幕板４とを備える。このうち棚枠２は、いずれも矩形状に構成された、第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３を有する。ここで、「矩形状に構成された」とは、枠の外輪郭が矩形であることをいう。
【００１６】
第１の側枠２１の幅方向（図２の紙面横方向。以下同じ。）の一方の端辺２１２及び背枠２２の幅方向の一方の端辺２２１、並びに背枠２２の幅方向の他方の端辺２２２及び第２の側枠２３の幅方向の一方の端辺２３１がそれぞれ連結されている。
【００１７】
ここで、第１の側枠２１の第１の面２１３、背枠２２の第１の面２２３及び第２の側枠２３の第１の面２３３は同じ側に配置されており、いずれも組み立て状態において折り畳み盆棚１の内側に配置される。同様に、第１の側枠２１の第２の面２１４、背枠２２の第２の面２２４及び第２の側枠２３の第２の面２３４は同じ側に配置されており、いずれも組み立て状態において折り畳み盆棚１の外側に配置される。すなわち、組み立て状態において、第１の側枠２１の第１の面２１３及び第２の側枠２３の第１の面２３３が対向している。なお、図示しないが、折り畳み盆棚１において、第１の側枠２１及び第２の側枠２３の対向距離を固定するため、保持具を設けてもよい。その形状や大きさ等は限定されない。
【００１８】
第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３のそれぞれは、四本の四角柱状体が矩形の各辺を構成してなるものである。例えば木材を主として棚枠を構成する場合、四本の四角柱状体を釘や接着剤で構成してもよいし、一つの木材から一つの柱状体を切り出してもよい。
【００１９】
また、第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３のそれぞれを構成する柱状態の形状は四角形のものに限られず、円柱体、他の多角形柱体でもよい。
【００２０】
第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３のそれぞれは、矩形の枠の内部に、機械的強度を担保する観点から、間柱２１５，２２５，２３５が設けられている。図１～４においては、第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３のそれぞれにおいて、間柱２１５，２２５，２３５は一本の四角柱として示しているが、その本数や形状は限定されるものではない。また、間柱の位置も、枠状体の中に存在する限りにおいて限定されるもので

はない。

【００２１】

また、間柱２１５，２３５の下部にはそれぞれ、折り畳み盆棚１の組み立て状態（図１参照）において、折り畳み盆棚１の内部に向けて棚板３を設置するための棚板支持部２１６，２３６が設けられている。これらの棚板指示部２１６，２３６は、折り畳み盆棚１の組み立て状態において、折り畳み盆棚１の内部に向けて凸状に延在してなる。図３は、本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て状態におけるＡ－Ａ断面図である。なお、図３において、背枠２２を省略している。棚板３の大きさを、一辺が第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３の一辺よりやや小さくすることで、第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３で囲まれたスペースに入れることはできるが、図３に示すように、この棚板支持部２１６，２３６により、それよりも下方への落下を防止し、盆棚としての機能を担保することができる。

【００２２】

なお、図１～５において、棚板支持部２１６，２３６は、間柱２１５，２３５の下部に連結するように設けているが、その位置や大きさは限定されるものではない。また、棚板支持部２１６，２３６は、第１の側枠２１及び第２の側枠２３の幅方向と平行する一本の四角柱状体としているが、棚板支持部２１６，２３６は、棚板を支持可能である限りにおいて、その数や形状は限定されるものではない。

【００２３】

図４に、本実施形態の折り畳み盆棚の折り畳み方について説明するための模式図である。折り畳み盆棚１を折り畳む際には、第１の側枠の第１の面２１３及び背枠の第１の面２２３、並びに第２の側枠の第２の面２３３及び背枠の第２の面２２４が合わさるようにして折り畳み可能に構成されている。

【００２４】

上述のような折り畳み可能な構成するためには、例えば、第１の側枠２１の幅方向（図２の紙面横方向。以下同じ。）の一方の端辺２１２及び背枠２２の幅方向の一方の端辺２２１、並びに背枠２２の幅方向の他方の端辺２２２及び第２の側枠２３の幅方向の一方の端辺２３１の連結を、回転可動部としての屏風蝶番２４によりなせばよい。なお、回転可動部は、屏風蝶番２４に限られるものではなく、上述のように折り畳み可能であれば特に限定されるものではない。

【００２５】

なお、折り畳み盆棚１は、逆の折り畳み方も可能である。すなわち、第１の側枠２１の第２の面２１３及び背枠２２の第２の面２２４、並びに背枠２２の第１の面２２３及び第２の側枠２３の第１の面２３３が合わさるようにして折り畳み可能である。

【００２６】

幕板４は、折り畳み盆棚１に高級感や意匠性を付与するものであってよい。図示しないが、一実施形態においては、中央部に模様を掘ったり、中抜きしたりしたものが用いられてもよい。幕板４としては、何らかの手段により、第１の側枠２１及び第２の側枠２３に固定できればよい。

【００２７】

図５は、本実施形態の折り畳み盆棚の組み立て状態におけるＢ－Ｂ断面図である。第１の側枠２１及び第２の側枠２３のうち、上辺の下部に折り畳み盆棚１の内部に向けて（図５の断面の紙面奥から手前に向けて）延在する凸状の幕板支持部２１７を設け、Ｂ－Ｂ断面において凹状に加工した幕板４と、凹凸で嵌合することで、幕板４を固定する。なお、幕板４の固定方法としては、この例に限られるものではない。

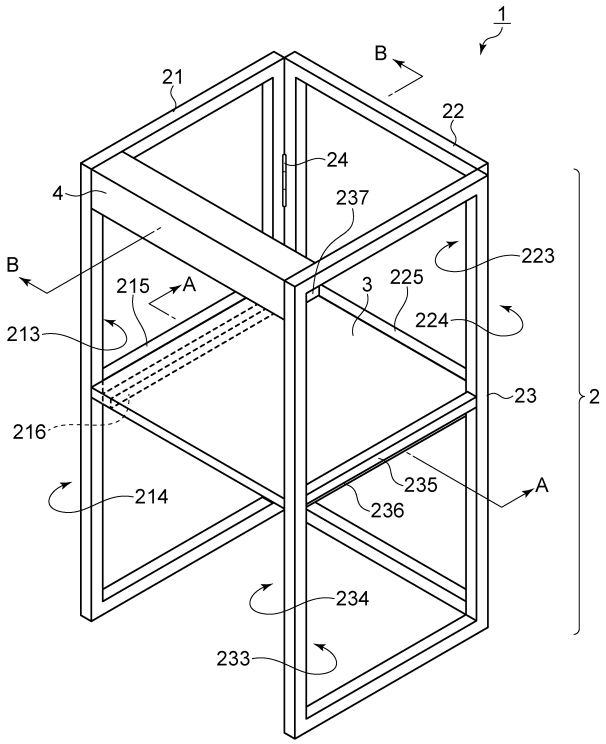
【００２８】

第１の側枠２１、背枠２２及び第２の側枠２３の主たる部分の材質としては、特に限定されないが、木材又は軽量の金属材（例えばステンレス、アルミ等）で構成されることが好ましい。なお、これ以外にも、枠を形成するための釘や金具等、その他のパーツ等を設けることを排除する意図ではない。

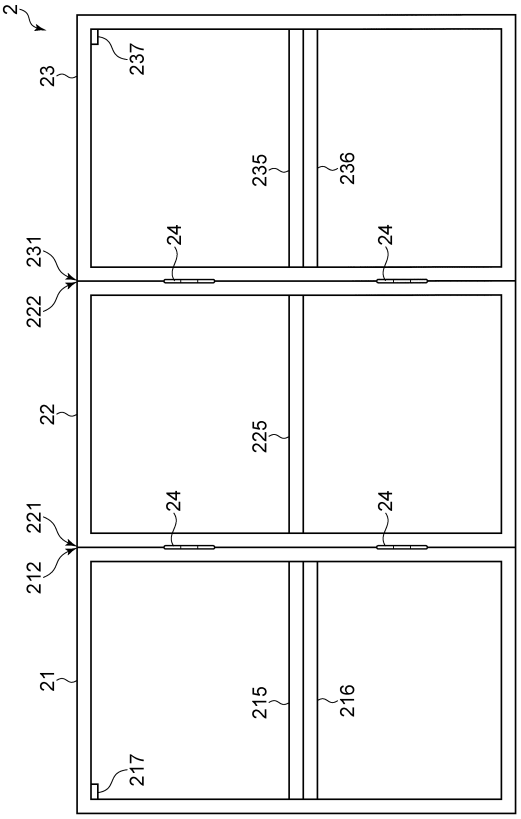
【００２９】
　このような折り畳み盆棚１では、屏風折で折り畳むため、背板及び側板一枚分の高さ及び幅と三枚分の厚みで収納スペースを低減することができる。また、枠状体として盆棚を構成しているため、重さが軽く、組み立てる際や運ぶ際の負担が軽減される。
【００３０】
　以上、本実施形態の折り畳み盆棚について、図１～５に具体例を示して説明したが、本実施形態の盆棚は、図１～５に具体例を示したものに限定されず、各部の大きさ、形状、位置等は本考案の折り畳み盆棚の効果を阻害しない限りにおいて、適宜変更を加えることができる。例えば、盆棚には、行灯や竹、ほおづき、盆ゴザ等を通常飾り付けるが、そのための留め金を設ける等してもよい。
【符号の説明】
【００３１】
１　折り畳み盆棚
２　棚枠
２１　第１の側枠
２２　背枠
２３　第２の側枠
２４　屏風蝶番
２１２　第１の側枠の幅方向の一方の端辺
２２１　背枠の幅方向の一方の端辺
２２２　背枠の幅方向の他方の端辺
２３１　第２の側枠の幅方向の一方の端辺
２１３，２２３，２３３　第１の面
２１４，２２４，２３４　第２の面
２１５，２２５，２３５　間柱
２１６，２３６　棚板支持部
２１７　幕板支持部
３　棚板
４　幕板

【図面】

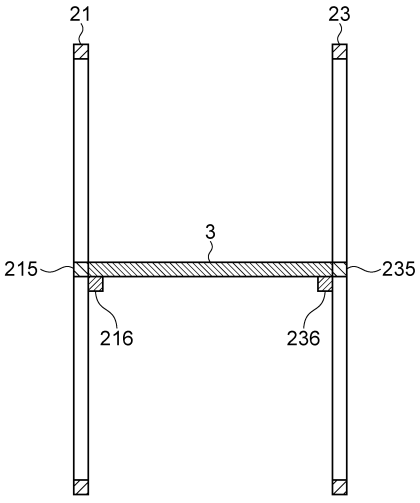
【図１】


1
B
21
22
24
4
237
223
B
215
A
3
225
213
224
23
2
216
214
235
236
A
234
233

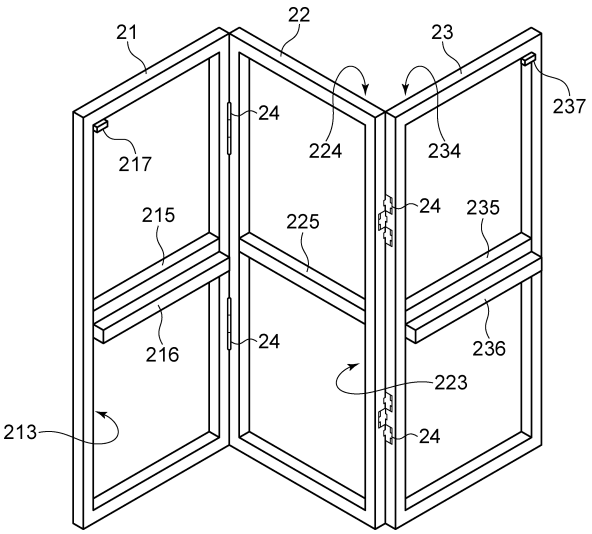
【図２】


2
237
23
235
236
24
24
231
222
22
225
24
24
221
212
21
215
216
217

【図３】


21
23
3
215
235
216
236

【図４】


21
22
23
237
24
217
224
234
215
24
235
225
216
24
236
223
213
24

【図５】

